



# 東京の会通信

No.266

2016年5月1日号  
(隔月1日発行)

発行：公的骨髄バンクを  
支援する東京の会  
〒162-0065 東京都新宿区  
住吉町10-8 第1菊池ビル302号  
TEL：03-3354-6377  
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>  
e-mail:marrow\_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

## ドナー支援制度、東京の9自治体で 実施、1自治体で実施予定

公的骨髄バンクを支援する東京の会（略称：東京の会）では、4月5～7日、東京の全自治体に対して、骨髄移植ドナーに対する支援制度の実施について、電話での問い合わせを行いました。その結果、9自治体で実施中、実施開始、1自治体で実施予定であることがわかりました。

従来から実施：稲城市（平成24年度より）、豊島区（平成28年1月より）

今年度から実施：品川区、世田谷区、渋谷区、三鷹市、武蔵野市、町田市（平成28年4月より）、杉並区（平成28年6月より）

実施予定：小金井市

聞き取り調査では、上記の他に、今年度制度化は見送ったが、他の自治体の動向を見ているとの回答がいくつかの自治体でありました。また、独自事業として継続している自治体の一つ、4月から独自の新規事業として開始したのが1自治体あり、この2自治体については、東京都の医療保健政策包括補助事業と連動していないことがわかりました。制度化した自治体の予算については、ほとんどが1～2名分程度です。

未実施の自治体では、この制度に対する態度や対応に微妙な違いが感じられ、できれば、東京都から自治体に対する何らかの指導や関与が望まれます。とりわけ、町や村のような人口の少ない自治体においては、交通網が不十分であったり、地元に登録する場所や血液疾患を治療できる病院がなかったり、人口の半数以上が50歳以上であったり、自治体だけの措置では、制度化そのものが不可能ではないかと感じられる自治体もありました。

聞き取りを行って、実施状況はほぼ把握できたと思っておりますが、現在の実施のスピードでは遅すぎ

るのではないかと感じてしまいます。また、制度をつくることができない自治体も出るのではないかと予想されます。ドナー支援制度は、平成28年度がスタートした段階では10自治体で実施が決まっているとはいえ、このペースで進むとすると、全自治体で制定するには、あと5年もかかってしまい、その間はドナーとなって骨髄提供を行っても、支援のない自治体が比率で多数を占めかねません。

また、どうしても制度ができない自治体のことも考えると、この制度については東京都が実施主体となり、全都民に対して住んでいる地域によって差がないようにすべきである、と答えた自治体関係者もおられました。

東京の会としては、29年度こそは全自治体で制度が実現されることを目指して取り組みます。各自自治体や議会等への働きかけとともに、東京都に対しても、もっと積極的に推進するよう求めていきたいと思っております。

(代表 三瓶和義)

### 訂正とお詫び

東京の会通信（隔月発行）2016年1月1日号（No.264）1ページ左側の欄24行目の「小平市議会」と、3月1日号（No.265）の1ページ左側の欄12行目の「小平市」を削除させていただきます。小平市においては、市議会への陳情等は行っていませんでした。会員相互の情報伝達のミスにより誤記載となったものです。小平市、小平市議会をはじめ、関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。今後、このようなことが起きないように努めますと同時に、骨髄移植ドナーへの支援制度の確立に全力で取り組みます。（代表 三瓶和義）

## 2016年度献血ルームにおける ドナーリクルート活動について

街頭活動で献血の呼びかけと骨髄バンクの普及広報を行い、ボランティア意識の高い献血者に対し、ドナー登録推進活動を行うことを目的に献血ルームでの活動を始めて7年目を迎えます。これまで6年間の活動実績（実施回数とドナー登録者数）は次の通りです。

2010年度	6回	46名	2011年度	8回	115名
2012年度	7回	99名	2013年度	6回	108名
2014年度	6回	100名	2015年度	6回	120名
合計		39回	588名		(15.1名/回)

2015年度実績の内訳を示すと次の通りです。目標を120名としたのですが、何とかクリアすることができました。

新宿東口献血ルーム	3回	登録者数	65名
有楽町献血ルーム	3回	登録者数	55名

2016年度計画は、回数を1回増やし7回にして登録目標数を140名としました。活動予定日と場所は以下のとおりです。（時間はいずれも10：30～16：30）

2016年5月21日（土）	新宿東口献血ルーム
6月11日（土）	有楽町献血ルーム
7月23日（土）	新宿東口献血ルーム
9月17日（土）	有楽町献血ルーム
10月22日（土）	新宿東口献血ルーム
12月10日（土）	有楽町献血ルーム
2017年2月18日（土）	新宿東口献血ルーム
計	7回 登録者目標 140名

ドナー登録推進活動は骨髄移植の必要性がある限り、今後も継続して実施していく必要があります。献血ルームでの活動については、これまでの活動でノウハウも蓄積されてきており、徐々に成果が上がってきています。「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」の施行に伴い、日本赤十字社の組織や運営が変わることも考えられますが、適切に対応して今後も活動していきたいと考えています。

## 今年も献血並行登録会も実施 ～東日本大震災復興イベント～

3月6日の日曜日、新宿中央公園・水の広場で恒例の「東日本大震災復興イベント～3・11の教訓を忘れない」が催され、新宿新都心ライオンズクラブ様のご好意で東京の会もブースを設けさせていただきました。お天気だけが心配でなりませんでした、何とか雨は降らずにもってくれました。

午前11時の開幕と同時にミニコンサートやたくさんのお店が賑わう中、焼き牡蠣、新鮮野菜の販売など、東北の物産が大人気です。この日は献血車も出動。口コミやフェイスブックなどのSNSで開催を知った方々が献血やドナー登録にお越しくださいました。しかし、場所柄なかなか動員が難しいことを実感。次回からはもう少し工夫が必要です。

午後2時46分、震災発生時刻に合わせた一斉の黙



祷で幕を閉じました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げますと同時に、被災地の復興を心より祈念いたします。（松阪一紀）

### 日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成28年3月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	458,352	57,736	47,592
2-3月登録分	4,387	417	516
2-3月抹消数	3,423	363	—
実質登録増	964	54	—

### 患者とドナー登録・適合状況(3月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	663,775人
ドナー登録抹消者数(累計)	205,423人
HLA適合報告ドナー数(累計)	257,947人
実質登録患者実数(現在)	3,242人(国内1,453人)
HLA適合患者数(累計)	38,073人(患者累計数の80.0%)
非血縁移植実施数	19,297例(2-3月実施195例)

## プルデンシャル生命保険(株)で 骨髄バンクドナー登録説明会

プルデンシャル生命保険(株)では、箱根駅伝の沿道での骨髄バンクPR活動に毎年多くの社員の方々が参加し、会社から参加人数分の日当相当額を全国協議会に寄付していただいています。2月22日、同社の第二支社で贈呈式が行われ、大谷貴子全国協議会顧問が寄付金を受領しました。贈呈式には東京の会の説明員4名も臨席しました。

大谷さんのお礼の言葉に続き、東京の会の大橋一三さんから、同社の箱根駅伝や骨髄バンクボランティアとの関わりあいの歴史が紹介されました。また、説明員の松阪一紀さんからは、家族の発病とボランティア活動参加の動機についてお礼とともに語られ、会場に感動の輪を広げました。

贈呈式に続き、昼休みの時間を利用して社内で骨髄バンクドナー登録説明会を開催しました。会場には21名の社員が訪れ全員が説明済のドナー登録申込票の発



プルデンシャル生命保険(株)様の社内で登録説明会を開催

行を受けてくださいました。当日中に2名の方が有楽町献血ルームで登録されたとのこと。残りの方々も全員が最寄りの献血ルームで登録していただけたことでしょう。(新田恭平)

## ブロックセミナーでボランティアが熱く議論

3月19日に全国骨髄バンク推進連絡協議会主催の「関東・甲信越ブロックセミナー」が、全労済東京会館会議室で開催されました。セミナーには関東地区から「骨髄バンク命のアサガオ新潟」「神奈川骨髄移植を考える会」「埼玉骨髄バンク推進連絡会」「千葉骨髄バンク推進連絡会」「公的骨髄バンクを支援する東京

の会」の5団体が参加しました。

最初に野村理事長より賛助会員への理解と協力についての案内があり、その後「移植に用いる造血細胞の適切な提供の推進に関する、法律の見直しに関する要望」の報告と、ペイシェント アボガドシー(患者擁護)についての説明がありました。

続いて参加団体からの活動報告があり、「厚生労働省、日本赤十字社、日本骨髄バンクは一体となって事業推進して頂きたい」など熱い意見が交わされました。会議終了後、9割ほどの参加者がそのまま懇親会に参加しました。自分を含めて未だ話足りなかったのかも知れません。

余談になりますが、私は関東圏のドナーさんに命を救って頂きました。今では其処でボランティア活動を継続させて頂ける日々不思議なご縁を感じています。受け入れて下さった先輩方に心から感謝をしています。

(鳥羽雅行)



熱い議論が交わされた関東・甲信越ブロックセミナー

### 心のこもったご寄付ありがとうございました。(2016.2.16~4.15)

円満堂和子さん 2,000円/志村哲夫・勲子さん 7,000円/高橋真知子さん 10,000円  
名川一史さん 10,000円/三瓶和義さん 900円/匿名 5,000円/坂本孝子さん 5,000円  
3.11震災復興支援イベントの募金 12,317円/東京の会有志一同 3,501円/新田雅子さん 50,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

# 10数年前の初めての入院体験

福島 統

Message from Donor

私の初めての入院体験が、骨髄移植のドナーとしての3泊4日の入院でした。開業医の長男として生まれ、医学部に進み、医師免許を持った身でしたが、それまで入院という体験がありませんでした。初めて入院してみても、しかも自分の出身校でない大学病院に入院して、いろいろな経験をしたので、あえて入院体験「実習」と自分の中では位置付けています。

私は1975年に都内の私立医科大学に入学し、1981年に卒業しました。大学生の時代のおこがれの女優は「西遊記」に出演していた方でした。私の医学生時代は、血液内科の先生や小児科の血液を専門にする先生が講義のたびに、「今、アメリカで骨髄移植が試みられている。これは夢の治療法だ！これで白血病は治せる!!」と声高らかに熱く語っていました。なんでこんなに熱く語るのか、臨床実習に出るまで分かりませんでした。

医学部5年生になって、とうとう私も臨床実習に出ることになり、最初の実習が小児科でした。ここで私は初めて白血病の子どもに会いました。治療中の子どもたちは、治療経過を調べるために骨髄穿刺という検査を受けなければなりません。この痛い検査を嫌がる子を看護師さんが引っ張っていく、二人の後姿は忘れられませんでした。

次の臨床実習は内科でした。そこでは再生不良性貧血の同い年の男性患者さんの受け持ちとなりました。この患者さんは私の実習後に急性白血病となって亡くなりました。同い年の同性の患者さん、そして白血病の子どもたちと接して、血液内科や小児科の先生たちが「夢の治療法」と声を大にして熱く講義してくれた気持ちがようやく分かりました。「白血病ごときで人を死なせない」、それが医学の進歩だ、と。

この経験は私を一人の臨床医ではなく、医学研究者へと導きました。私は卒業後、基礎医学の大学院に進み電子顕微鏡組織化学という分野を専攻しました。前に述べた女優さんが白血病で亡くなったのは1985年、私が大学院を修了し、医学部の基礎医学の教員になった年です。その後アメリカに留学し、1989年に帰国しました。

それから数年後に王さんが出ていた骨髄移植推進財団の宣伝をテレビで見て、学生時代の思いがよみがえりました。とうとう日本でもあの「夢の治療法」が行われていることを知り、すぐさまドナー登録をしました。しかしこのドナー登録の夢が叶うには長い時

間がかかりました。私がドナーになったのは確か3人目か4人目の患者さんでした。2次検査で落ち、3次検査で落ち、そしてDNA検査で落ち



ました。10年以上、私の夢は叶いませんでした。

その間、私がドナー登録をしたことを周りに話していたら、同じ職場の職員の人に3歳の時にお父さんを白血病で失った人がいました。1960年代だと思えます。このころの白血病治療のことを考えると致し方ないのでしょうか、治療法という武器を持たない医学をととても悲しく思いました。その方は、ドナー登録をされて、実は私にとってはドナー経験の先輩になりました。

初めての入院体験実習、しかも母校ではない大学の病院の血液内科の病棟です。初めての二人部屋入院、初めての全身麻酔、初めての手術、そして初めての膀胱カテーテル。手術が終わり、病室に戻ってきたときのご機嫌のよさ（これは麻酔薬の副作用なのですが）に酔っていた時に、膀胱カテーテルに気づきました。そして、カテーテルを抜かれる時が来ます。恥ずかしながら、初めて女性の医学生に見られる患者さんの気持ちを知ることになりました。医学部で医学生を教える先生としてはあまりにも遅すぎた経験でした。隣の患者さんは悪性リンパ腫のご高齢の方で、いろいろお話を聞かせて頂きました。これも貴重な体験となりました。医者の説明がいかに分かりにくいものであるか、隣のベッドで聞いていました。

私の骨髄が誰かの役に立っていることを祈っています。採取された骨髄液は900mlと聞きましたから大きな方ではないと想像します。今、白血病の治療は素晴らしいスピードで進化し続けています。もっともっと進化するでしょう。もっと患者さんに優しい確実な治療法が出てきます。そのために研究は進まなければなりません。

ドナーの体験を書くようにとこの原稿の依頼を受けましたが、自分の入院体験実習の話しとなってしまいました。私はこの入院で多くのことを学ばせてもらいました。同室になった隣の患者さんにもお礼を述べたいと思います。ドナーになるという自分の夢も叶いました。これが私の2003年物語です。

## 患者さんに聞いてほしい！「東京の会総会&講演会」

東京の会総会が近づいてきました。今年も総会終了後に講演会を開催します。

今年の講演会は、すでに報告のとおり、赤十字医療センターの塚田信弘先生を講師としてお招きします。患者さんに対する最善の治療方法を日々選択している塚田先生に、最新の移植現場での移植治療について講演いただきます。

移植と一言で言っても、患者さんの病状やタイミングにより移植の方法は変わります。最近では「さい帯血移植」が大幅に増加し、「非血縁者間骨髄移植」と同じ程度の移植数になっています。ではなぜ「その移植」を選択するのか、主治医の先生が治療方法を選択する決め手は何なのか、を分かりやすく講演いただきます。

講演に続いて、末梢血幹細胞移植にて実際に骨髄を提供したドナーさんをお呼びして、提供した時の体調

の変化やその様子を話していただき、その後、塚田先生を交えて、末梢血幹細胞移植について認識を深めます。

日時：2016年6月25日（土）13：00開会

場所：全労済東京会館3階会議室（西新宿）

13:00～ 東京の会第27回総会

14:15～ 講演会「主治医の選択（仮称）」

赤十字医療センター

血液内科副部長 塚田信弘先生

どなたでも参加できる「総会&講演会」です。患者さんや患者家族の方々、東京以外にお住まいの方も大歓迎です！ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています！

## 東京ドナー登録会予定(5月・6月)

5月11日(水) 赤羽駅東口(北区)

5月30日(月) 葛飾区役所(葛飾区)

6月8日(水) 赤羽駅東口(北区)

## 東京の会 「5月、6月定例会」 のお知らせ

5月21日(土)、6月18日(土) 午後5時30分より

※5月、6月は第3土曜日の開催となりますのでご注意ください。

会場：全労済東京会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※7月定例会予定・7月23日(土) 午後5時30分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

## 7月会報発送

## 「おりおり」のお知らせ

6月の「おりおり」はありません！

発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

7月2日(土) 13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所：品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※2016年9月「おりおり」予定・9月3日(土) 13時00分より

## 東京の会10周年記念出版

## 『もう一人の私』

患者とドナーからのメッセージを中心に、骨髄バンクの10年を東京の会通信の視点でつづる評判の一作。

本屋さんでは取り扱っていません。

あなたもお読みください。



お申し込みは

東京の会へ

売価：1500円

送料：300円

10冊で12,000円(送料込)

# 編集者 雑記



▼この国が右傾化してきているのではないかと懸念されています。右傾化の本質は、組織と個人の関係において、個人の価値観より組織の価値観を重視し、一人ひとりの考えは無視されるところにあります。右傾化した組織の危険な弱点は、組織の指導者や指導グループの個別的な考えや思想のみが組織全体の価値観として通用するようになり、それと異なる思想や意見は組織の理念に反するものとして排除されるようになることです。組織が独裁化するおそれがあるのです。

▼右傾化は時間をかけて慎重に進められます。急激に進められると組織内で反発が生じ、右傾化が反って遅れてしまうことになるからです。また、右傾化は、組織のガバナンスやコンプライアンスを尊重して進められます。それらが重んじられないと瑕疵が生じ、反対する勢力に強い反論の根拠を与える結果になるからです。

▼社会の右傾化は、社会に生じている問題点と無関係ではないようです。社会に格差が生じ、それに対する不満がくすぶっていると、右傾化が進みやすくなるように思われます。社会のグローバル化が進み、一国の社会構造が世界の経済状態や物流、あるいは指導的国家の政治の流れや思想に影響を受けることが多くなってきており、世界的な右傾化の流れが生じているのかもしれない。

▼我が国が格差社会の道をたどり始めたことと、労働者派遣法の制定をはじめとする労働関係法の緩和の歴史とは重複する部分が多いようです。1985年労働者派遣法が制定され、翌年に施行されました。当初限定されていた派遣社員の職種も徐々に広げられ、バブルの進展とともに産業界で派遣社員の活用が拡大していきました。1990年代から2000年代にかけてのバブル崩壊期に至って、産業界の人件費縮小化傾向が強まり、雇用の非正規化がすすめられた結果、労働者の格差化が進んだのです。人材派遣会社の経営者から「年収400万円以上の労働者は時間外手当の支給をしないよう制

度化してはどうか。」との発言があったのを覚えています。

▼社会の格差はいろいろな面に表れるのですが、最も典型的な形での現れ方は世代間の収入格差です。労働法の緩和の結果、各企業の雇用者構成の非正規社員比率が上がり、正規社員と非正規社員の賃金格差が生じると同時に、若年労働者の非正規社員が増えて中高年労働者と若年労働者の間に収入格差が生じてきているのです。

▼中高年労働者は安泰なのかということ必ずしもそうではありません。すでに定年を迎えた団塊の世代、これから定年を迎える人たちを待ち受けているのは、場合によっては陥る老後の下流化のおそれであり、その要因は、老後に備える貯蓄の格差と減額された退職金の格差なのです。

▼社会の右傾化は労働組合の組織率をも低下させ、我が国雇用制度の特徴であった終身雇用制やベースアップのシステムを崩してきており、若年労働者の収入格差と相俟って社会全体の経済的余裕をそぎ落としてしまっているように思われます。

▼最近、ボランティア団体の活動資金が集まらないという話が、よく話題に上ります。ボランティア活動は、活動の趣旨に賛同できても、参加するには活動への強い意思と生活面での多少の経済的・精神的ゆとりがないと踏み出せないものです。活動に直接参加できない場合に、支援金の寄付をされる方も多くあり、ボランティア団体としては大変ありがたいことなのですが、社会の高齢化の進捗とともにサポーターの皆様の財務力に不安が生じてきたために、ご支援が減ってきているように感じるのは筆者だけでしょうか。

▼世代間の収入格差、人口で大きな割合を占める中高齢者における下流化の問題と、この国の社会は大きな不安を抱えており、右傾化が進みやすい条件が整いつつあるといつてよいでしょう。このような不安は、緻密な財政努力と長い時間をかけて初めて本質的解決が得られるのですが、短期的な皮相な対策をもって支持を得て、右傾化の基盤作りに利用されることがありうるのです。個人の価値観より組織の価値観が重視され、個人の意見が発言しにくくなったり、勇気をもって発言しても押し潰されたり、無視される社会にならないよう、留意していかなければなりません。(k)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。  
皆様からの善意をお待ちしております。

**ボランティアの運動にも資金が必要です。東京の会に活動資金のカンパを!**

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**  
他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / 〇一八支店(018) 普通口座No.4180512  
加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**